

患者数は、外来が39.6人、入院は20.9人でした。

非常勤医師による足の外科専門外来（畔柳）、脊椎専門外来（小柳・上田）は続いており、診療分野を広げた体制を維持しています。

2022年度も今まで同様、地域医療に貢献してまいりたいと考えております。

手術(2021年)

・骨折・脱臼手術		・脊椎手術	1
大腿骨近位部骨折 骨接合術	45	・肩関節鏡手術（腱板断裂・滑膜切除など）	0
大腿骨近位部骨折 人工骨頭置換	49	・膝関節鏡手術（靭帯再建・半月板切除など）	7
四肢骨折・脱臼骨折	40	・骨軟部腫瘍	71
・人工関節置換術		・手の外科領域（神経剥離、腱縫合、人工指関節など）	17
股関節	13	・足の外科領域（外反母趾、腱縫合など）	9
膝関節	9	・下肢切断	3
肩関節	0	・その他	45
肘関節	0	計 309	

（文責 整形外科部長 水谷 憲生）

(15) 脳神経外科

2017年度に川崎市立川崎病院に脳神経外科の人員を統合することとなり、井田病院に常勤医はいなくなったため、それ以来入院および手術件数は0件となっています。

2021年度も同様の体制ですが、外来は週2回（月曜と水曜）脳神経外科医が非常勤で勤務しており、適宜脳神経外科疾患のフォローアップや紹介、新規の依頼、救急等対応しております。また、手術などの高度な対応は川崎市立川崎病院と緊密な連携を持って対応しております。

（文責 副院長 掛札 敏裕）

(16) 精神科

(1) 当院の精神科では、外来を中心とし、病棟はリエゾン依頼によるリエゾン方式と癌サポートチームへのサイコオンコロジストとしての参画としています。尚、病院全体としては脳波判読を行っています。

(2) 人事異動につきましては、火曜日午前外来の担当医が米澤医師から赤尾医師に変更されました。又、新しく常勤として10月より柴田医師が赴任されました。

(3) 2021年度の外来の構造としては火曜日外来の担当医が米澤医師から赤尾医師に変更され、柴田医師の外来を月曜日午後・金曜日午後に新しく設定しました。精神科外来の新規患者数は92件（昨年104件）、年間外来患者延べ件数は4334件（前年度4478件）とコロナ禍の影響を受けやや減少してお

ります。内訳として認知症性疾患や統合失調症、うつ病、双極性障害に、非定型発達の精神症状、PTSDなどの神経症群、時に睡眠障害やてんかん、また精神科相談といった内容もみられますが、件数としては、本年度は頭打ちでした。一時的相談ケース・ご高齢による入院ケース・身体症状悪化による入院ケース等ご紹介するケースが増えてきており、精神症状悪化による他院紹介ケースも時々見られるものと思われま

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	徳納	赤尾	松本	石附	徳納
午後	柴田	徳納		徳納	柴田

(4) 入院患者については精神科リエゾンとがんサポートチームでのコンサルトを昨年引き続き行っております。

・リエゾン依頼による新規依頼患者数は135件(昨年度122件)で、新規患者数は微増にとどまっています。また、リエゾン回診中の相談ケースもあります。依頼内容として精神疾患は認知症などの器質性精神障害やせん妄などの症状性精神障害を中心としており、気分障害(うつ病や躁鬱病)や適応障害・統合失調症・アルコールなどの精神作用物質による精神障害・精神遅滞や発達障害・神経症性障害は減少しているものと思われま

す。リエゾン回診を毎週木曜日に行っております。
 ・がんサポートチームとして依頼件数は新規患者143件(昨年度325件)、依頼件数も239名(昨年度426件)となっており、コロナ禍の影響を強く受けたものと思われま

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前			癌サポートチーム回診	精神科リエゾン回診	

(5) 脳波判読については、検査技師の協力のもと行っておりますが、脳波依頼件数は85件と昨年92件と同等数でした。コロナ禍の影響を受けているものと思われま

(6) 今後の課題

・多職種チーム(チーム医療)としての機能は精神科リエゾン活動は、ドクターによって行われております。癌サポートチームについては精神腫瘍医として参加しています。専従医師・看護師もおり関連の他職種チームとして機能しているように思われま

すが、コロナ禍のあおりにより患者数は少なかつたものと思われま

す。
 ・外来では、月曜日から木曜日まで初診枠を設けて1名/1日まで初診を受入れるように努めたものの外来患者のべ件数はコロナ禍で増加しなかつたものと思われま

(文責 精神科部長 徳納 健二)

(17) リウマチ膠原病・痛風センター

[人事] 2012年4月よりリウマチ膠原病・痛風センターとなりました。2021年度の診療はセンター長の鈴木貴博、栗原夕子、奥佳代、阿南隆二、水谷憲生、竹内克仁、山本隆、前島成、今本多計臣で行いました。

[外来診療] リウマチ膠原病・痛風センターとして、12番ブロックでの診療を行いました。リウマチ科としては全ての午前中にリウマチ専門医を配置し、同様に午前中に診療を行っている整形外科医と連携してリウマチ性疾患の診療を行いました。

[診療実績] 関節リウマチについては、MTX内服を基本治療としつつ、必要な患者には生物学的製剤、JAK阻害薬を積極的に導入しました。外来で、生物学的製剤導入時に自己注射の指導を行いました。また化学療法室で、生物学的製剤点滴静脈注射患者の化学療法外来を行いました。その他、関節リウマチの内臓重症合併症、膠原病、血管炎症候群の精査・入院加療、リウマチ性多発筋痛症、痛風・高尿酸血症などを外来で診療しています。

[学会活動] 日本内科学会関東地方会、日本リウマチ学会総会学術総会・関東地方会、日本アレルギー学会関東地方会などに積極的に参加し、発表や最近の知識取得に努めました。

[当科関連の学会による施設認定] 日本リウマチ学会認定教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本感染症学会認定教育施設

[今後の展望] センターでの診療の質をより高め、患者満足度を高めるため、整形外科、理学療法士、看護師、その他コメディカルとの連携を充実させていきたいと考えています。また、リウマチ専門医を目指す若い医師の教育にも力を入れていきたいと考えています。

(文責 内科担当部長 栗原 夕子)

(18) 皮膚科

人事異動

常勤医として安西秀美・鈴木千尋・朱 瀛瑤・土屋 茉里絵医師(敬称略)、非常勤医として亀谷葉子医師(敬称略)にもご協力頂き診療を行っております。

診療科概要

日本皮膚科学会認定専門医研修施設となっております。地域拠点病院の診療科として、幅広く皮膚科全般に対応し、外来・入院診療を行っています。手術にも積極的に対応しています。

外来診療

皮膚科一般外来は平日午前中予約制ですが、11時までの外来受付時間にお越し頂ければ、紹介状や予約をお持ちでなく当日受診された方も受診可能です。緊急の時間外診療もできる限り対応しており

ます。

午後は主として予約制で下記を行っています：

手術（局麻・全麻），“できもの”（脂漏性角化症など）“しみ”（老人性色素斑など）に対する炭酸ガス・Qスイッチルビーレーザー、高周波ラジオ波メス

皮膚生検、パッチテストやスクラッチ/プリックテスト等の各種アレルギー検査

爪診療；巻き爪・陥入爪治療（ワイヤー・巻き爪マイスター・クリッピング・ガター、フェノール法）、厚硬爪グラインダー・爪切り等の爪処置

光線療法（エキシマライト、ナローバンド UVB、PUVA）、脱毛症治療の SADBE、など。

アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、尋常性乾癬、化膿性汗腺炎に対する生物学的製剤も積極的に導入しています。入院対応も行っており、フットケア及び褥瘡・スキンテア・スキントラブルに対するチーム医療回診を継続、他科依頼にも随時対応しております。緩和ケア科と協力の元、ロゼックスゲル®、モーズ氏ペーストをはじめとした腫瘍皮膚浸潤への処置・ケアも行っております。

*爪診療・レーザーの一部は自費となります。

手術件数

皮膚良性腫瘍・悪性腫瘍の切除術や拡大切除、植皮・皮弁による再建について積極的に当科にて対応しています。顔面など部位特殊性のあるものや規模の大きな皮弁の再建などについては当院形成外科とも連携しながら行っています。

年間手術件数： 257 件、生検件数： 108 件

今後の展望

的確な診断とわかりやすい説明を心がけており、必要に応じて他科や関連病院・慶應をはじめとする大学との連携をとっております。皮膚科分野における生物学的製剤や外用の新規薬剤が続々と登場しており、これらも積極的に導入しながら、今後とも病診連携、病病連携をはかり、地域の医療に少しでも貢献できたら幸いです。

（文責 皮膚科部長 安西 秀美）

（19）泌尿器科・泌尿器内視鏡科

2021 年度の人事では横溝由美子医師が藤沢湘南台病院へ転勤となり、済生会横浜市東部病院から新たに小杉道男医師が赴任しました。

新たな診療内容として、膀胱浸潤癌に対するロボット支援膀胱全摘術、女性泌尿器の骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨靭帯固定術を安全に導入、施行することができました。ロボット支援手術だけでなく、内視鏡や腹腔鏡手術による低侵襲治療の実践と、女性泌尿器科を含む幅広い分野の泌尿器科疾患の治療に取り組んでいきたいと思っております。

2021 年度手術件数

名称	件数	名称	件数
ロボット支援前立腺全摘	39	TUL	65
TUR-BT	68	TUR-P	9
根治的腎摘（腹腔鏡下）	6(3)	高位精巣摘除	9
腎部分切除	1	尿失禁手術	1
腹腔鏡下腎尿管全摘	6	前立腺針生検	144
膀胱全摘	5	ESWL	37
ロボット支援膀胱全摘	3	腹腔鏡下仙骨腔固定術	4

（文責 泌尿器科部長 小杉 道男）

(20) 婦人科

当科は 2016 年度以降常勤 1 名態勢での診療が継続しております。手術は川崎病院からの応援医師の協力の下で実施しております。良性婦人科手術が中心になる対応となるため、内視鏡手術を中心とした治療を主に行っております。可能なものは腹部に傷ができない子宮鏡手術あるいは腔式手術を選択し、そうでないものは最小限の腹部術創で済む腹腔鏡手術を適応しています。侵襲が大きくなる開腹手術の実施は最小限にとどめています。

2021 年度手術件数

術式		件数	術式		件数
腔式手術	子宮全摘術	1	腹腔鏡手術	子宮全摘術	16
	円錐切除術	5		子宮筋腫核出術	6
	レーザー蒸散術	4		付属器摘出術	7
	バルトリン腺手術	1		卵巣腫瘍摘出術	3
	その他	1		その他	0
開腹手術	子宮全摘術	3		腹腔鏡手術合計	32
	その他	0	子宮筋腫摘出	11	
非内視鏡手術計		15	子宮鏡手術	内膜ポリープ摘出	6
内視鏡手術合計		49		その他	0
手術合計		64		子宮鏡手術合計	17

腹腔鏡による子宮筋腫や子宮内膜症の手術による腹腔内環境の改善や、子宮鏡手術による子宮の内腔環境の改善などによる妊孕性を向上させる治療、すなわち生殖内視鏡領域に重点を置き取り組んでいます。引き続き適切な手術適応の決定、安全確実な手術と術後管理を心がけてまいります。

（文責 婦人科部長 岩田 壮吉）

(21) 眼科

診療科概要

2020年度は高野洋之部長、鴨狩ひとみ医長、鈴木なつめ医師（2021年3月まで）の3名体制で診療を行っていました。視能訓練士については2名の体制で診療を行っています。

外来診療

午前是一般外来を行っており、午後は視野検査、術前検査、蛍光眼底造影などの特殊検査や網膜レーザー治療、YAGレーザー後嚢切開術などを行っています。

また、当院薬剤部の協力もあり、耐性菌、真菌、アカントアメーバの治療についても対応できます。

手術

手術は白内障、抗 VEGF 薬の硝子体注射、前眼部の小手術(翼状片、結膜弛緩など)を中心に行っています。角膜移植手術については一部の症例については当院で施行しており、国内ドナーによる待機手術、海外ドナーによる予定手術も可能です。

また、薬剤を用いた帯状角膜変性症の治療的切除も施行可能となりました。

網膜、硝子体手術については常勤医に網膜専門医が不在なため、必要に応じて適切な専門施設に紹介しています。

業績

2021年度外来患者数は5633名（2019年5620名）、手術は199件（白内障、硝子体注射、翼状片、角膜移植など一前年174件）でした。外来、手術ともに前年度同様 COVID-19 の影響もありましたが、ワクチン接種などが進んだことにより、前年度よりは回復基調となりました。

今後の展望

2021年度も COVID-19 の影響もあり、平時のレベルの診療に戻していませんが、2022年度は平時と同等の医療を提供すべく精進していきます。

（文責 眼科部長 高野 洋之）

(22) 耳鼻咽喉科

1. 診療科概要

上気道感染症、中耳炎、難聴、めまい、アレルギー性鼻炎といった一般的な疾患から、音声障害、嚥下障害、難聴耳鳴といった聴覚器・咽喉頭の機能障害や頭頸部癌まで幅広く対象疾患として取り扱っています。治療にあたってはQOLの維持・向上を目指した治療選択を心掛けています。常勤医師2名体制で外来診療および手術を含めた入院対応に当たっており、専門的な治療を必要とする場合は専門外来での診療を行っています。

2. 人事異動

本年度は人事異動なく、医長・此枝、副医長・海保医師が留任いたしました。

年度途中で海保医師が産休・育休を取得し、その間は診療体制を縮小し非常勤医師の支援を得て診療を行いました。

3. 診療内容

午前中は常勤医 2 診で再診・初診外来を行っており、耳鼻咽喉科疾患一般を対象に診療を実施しました（手術日である水曜日は除く）。

一部の疾患に対しては専門外来を設け、特に専門性の高い診療を実施しております。

専門外来としては、喉頭音声外来（担当 此枝）／月曜午後、耳鳴難聴外来（担当 小川非常勤医師）／金曜午前に外来を設置し、診療を行いました。

4. 外来・入院患者件数と手術件数

外来・入院患者件数

1 日の患者数	人
外来患者数 / 1 日	15.9
入院患者数 / 1 日	1.1

手術症例内訳

術式	件数	術式	件数
顕微鏡下喉頭微細手術	8	頸部腫瘍摘出術	1
経鼻内視鏡下副鼻腔手術	4	気管切開術	1
頸部リンパ節生検術	4	耳瘻管摘出術	1
口蓋扁桃摘出術	2	鼻中隔矯正術	1
咽頭腫瘍摘出術	2	鼓室形成術	1
甲状腺悪性腫瘍手術	2	永久気管孔開大術	2
甲状腺良性腫瘍手術	1	声帯内 BIOPEX 注入術	2
頸部郭清術	1	気管食道シャント閉鎖術	1
喉頭全摘術	1	咽頭皮膚瘻閉鎖術	1
耳下腺浅葉切除術	1		

（文責 耳鼻咽喉科医長 此枝 生恵）

(23) 麻酔科

2021 年度の総手術件数は 1720 件（前年度比 109%）、そのうち麻酔科管理件数は 1182 件（前年度比 107%）でした。

各科麻酔科管理件数は、外科 306 件、乳腺外科 66 件、整形外科 260 件、泌尿器科 412 件、婦人科 61 件、耳鼻咽喉科 28 件、歯科口腔外科 32 件、皮膚科 9 件等となっています。

新型コロナ蔓延の波により病床数が影響を受けており、前年度より症例数は増えたものの一昨年には届きませんでした。

川崎市立川崎病院麻酔科と慶應義塾大学医学部麻酔学教室の派遣医師と共に麻酔科管理枠 3 列対応としていましたが、川崎病院の人数減により年度後半より 2 列対応となる日が増えており、2022 年度も 3 列又は 2 列対応とする予定です。

（文責 麻酔科部長 中塚 逸央）

(24) 歯科口腔外科

当科ではおもに口腔外科疾患といわれる、歯だけではなく口腔、顎、顔面の一部の治療を行っております。午前中は月～金曜日、連日3名体制で外来診療を、午後は、親しらずの抜歯などの外来手術、入院下全身麻酔手術、病棟での口腔ケア、顎関節・口腔顔面痛専門外来などを行っております。一般歯科治療（歯牙齲蝕、義歯、歯周病など）は、原則、当院他科入院中の方への応急的な対応と、重篤な全身疾患により全身管理が必要な方に対してのみ実施しております。診療体制は、2021年4月においては、歯科医師3名（村岡、木村、横田）、歯科衛生士3名で行っております。

また、当院他科および地域歯科医師会と連携して、消化器系がんや化学療法、放射線療法、緩和ケアに伴う口腔ケアを行い、合併症などを最小限に抑制するための周術期口腔機能管理(口腔ケア)を実施しております。2021年は延べ446件に対応し、今後も、当院医科と地域医療部と協力し、口腔ケアにおける地域歯科医師会との地域医療連携をさらに強めていきたいと考えております。

昨年度の初診患者数は、およそ1,276名、再来を含めた延患者数は7,224人でした。外来診療では、口腔粘膜疾患や顎関節症などの治療を中心に、外来日帰り手術として、下顎埋伏智歯・埋伏抜歯術、歯根嚢胞摘出術・歯根端切除術、顎骨嚢胞摘出術などを行っています。当科への入院患者数は年間54人（延患者数342人）で、全身麻酔手術目的が34名で、その他は歯が原因の蜂窩織炎や全身管理が必要な抜歯術などでした。手術室での全身麻酔手術の内訳は、顎骨嚢胞摘出術が最も多く、次いで完全埋伏智歯抜歯術や口腔癌手術等でした。また手術室での局所麻酔手術は、インプラント手術が主でした。

今後も、地域歯科医師会/医師会との地域医療連携を充実させ、院内他科、看護部、地域医療部、その他スタッフの協力のもと、さまざまな口腔外科疾患に対応できる川崎中南部および横浜隣接地域の紹介型2次医療機関として地域医療に貢献していきたいと考えております。

（文責 歯科口腔外科部長 村岡 渡）

(25) 救急総合診療センター・救急科

1. 救急医療体制：開設から現在の体制

2015年3月、「救急センター」(救急初期治療室:ER)が開設されました。ERの直上3階には救急病床として、3西病棟およびHCU12床が設置され、鈴木救急センター所長(2015～2019年)の下、ER診療は救急科、入院診療は総合内科を主軸に救急患者の受け入れ診療業務が開始されました。

2019年4月、多様な救急医療需要に対応するため、名称を「救急総合診療センター」(所長：中島病院長、救急総合診療センター長：田熊)に変更し、市立川崎病院救命救急センターとの連携を図り、救急医による1次救急と2次救急への平日日勤帯の救急医療体制を整備しました。これにより、救急医が多様な傷病の応需が可能となり、各診療科の専門医への良好な連絡体制を構築し、病院全体で取り組む救急医療の実現に向けて一歩踏み出しました。

2020年4月から、救急医による連日準夜帯における救急診療を開始しました。準夜帯は救急需要が高く、この体制変更により、内科だけでなく外科、整形外科、泌尿器科等の多くの傷病に対応できるようになりました。

周辺地域の救急需要（救命救急を除く）の全てに対応し、かつ断らない救急を目指すとともに、地域医療部との連携により、緊急受診患者における受入体制の整備も進めています。

2. 診療スタッフ

- 1) 医師（救急科専門医、災害コーディネーター等）：
 - a) スタッフ:田熊清継(救急総合診療センター長)、鈴木貴博(副院長)
 - b) 非常勤医師:高橋俊介、竹村成秀、權守 智。他 川崎市立川崎病院救急科および慶應義塾大学医学部救急医学等の医療機関からの臨床支援。
 - c) 救急専攻医(市立川崎病院から派遣)
 - d) 初期研修医(ローテーション方式)
 - 2) 救急業務嘱託員（救急救命士有資格者等）：成毛 誠、西野一夫、平澤洋一、宮戸潤一
 - 3) 看護師:3西師長:福島貴子、HCU・CCU 師長:宗像弘美、外来師長:大溝茂実
3. ER

ERの救急車用口には、感染症用陰圧仕様の重症初療と診療室の2室があり、現在は主として新型コロナウイルス感染症患者への対応に使用しています。その奥には、中等症用初療2床と経過観察6床があります。加えて、救急診察室は3室あります。

4. 時間外の救急体制

- 1) 医師:①院長代行 HCU、②内科(ER担当、病棟担当)、③外科救急、④ケアセンター、⑤救急科(業務時間17時～22時)
- 2) 看護師:①ER看護師、②当直師長
- 3) 放射線科技師
- 4) 検査科技師
- 5) 薬剤師
- 6) 夜間救急受付事務員、警備員

5. 診療実績

救急医は、救急隊からの迅速な対応を目的として、救急隊からのホットラインを直接受け、救急搬送患者中心に診療を行いつつ、各診療科の当番医師、看護師、救急業務嘱託員(救急救命士有資格者等)等と共に ER 全体の管理と、院内救急患者にも対応しています。病院全体の救急医療体制の検討は、主として、救急医療運営委員会や当直検討部会等でおこなわれ、各専門診療科の医師や看護師、事務員等と、部門を越えた討論がおこなわれています。

ER 受診患者総数は、7,964 名(平日日勤帯 4,455 名、夜間・休日帯 3,135 名)で、緊急入院患者数は 2,667 名(入院率 33.5%)でした。救急車の受け入れ状況に関しては、2021 年度は救急搬送件数が 2,392 名と、2020 年度の 2,193 名に比較し増加していました。新型コロナウイルスの蔓延期においても、救急搬送された感染疑い患者と一般救急患者の診療における両立が図れつつあり、感染対応設備を活かし効果的な診療が行われたと考えています。加えて、2021 年度全体の救急車の応需率は 62.6%(平日日勤帯 81.2%、夜間・休日帯 53.5%) で、夜間・休日帯で低い結果となりました。

(文責 救急総合診療センター長 田熊 清継)

2 放射線診断科・放射線治療科

【2021年度の診療体制】

放射線部門は、放射線診断科と放射線治療科の2科体制です。

放射線診断科の人員体制は、昨年度とほぼ同様で、常勤放射線診断専門医1名(放射線診断科部長)、診療放射線技師18名、会計年度職員の診療放射線技師3名、受付事務委託職員(1階受付1名、地下受付に1名)、外来看護師(1階一般撮影部門1名、地下CT部門に1名、治療部門に1名)、会計年度職員の医師事務2名(各科1名))です。

また、読影体制も昨年度と同様で、常勤医師1名の他に、非常勤医師としてIVR(読影を含む)担当3名、読影担当5名で行い、翌診療日までのCT・MRI・核医学の読影を概ね80%以上の迅速読影を行い、各診療科からの種々のコンサルト等にも対応しました。

【放射線診断科の検査件数の状況】

2021年度は、2020年1月以降の国内での新型コロナウイルス感染症対策での市立病院の役割、感染症指定医療機関としての役割を担いながら地域に必要な医療提供体制の確保等も担ってきたという背景もあり、実質的な検査件数の合計は前年度と概ね同様でした。放射線診断科検査(表-1:治療を含む)では、67,780件(前年度69,548件)で、前年度比0.94でした。診療科別では、内科8486件(前年度比1.26)、外科4,219件(前年度比1.13)、消化器内科1,252件(前年度比1.34)、救急科2,401件(前年度比1.24)、健康管理科3,256件(前年度比1.32)などの診療科で増加が目立ちました。一方、血液内科203件(前年度比0.11)は常勤医師不在となった影響で著明に低下していました。

内訳では、IVR(表-4)は、全体166件(前年度比0.52)で、循環器領域の件数減少を反映していました。CT部門(表-5)は、全体で前年度比0.95、MRI部門(表-6)は、全身(DWIBS)300件(前年度比0.88)を含め、合計3215件(前年度比0.98)で、いずれもわずかに減少していました。核医学部門(表-7)では、心筋シンチ134件(前年度比7.05)は、循環器内科、看護部門の協力により検査枠の設定を行い安定的な検査増加を達成することができ、術前や化学療法による心筋評価に寄与しています。今後も画質向上とともに効率的な運用で件数増加が期待されます。また、他施設からの紹介、他施設への紹介に必要な画像取込は前年度比0.93、画像出力は1.14でした。

休日・夜間の検査人数(表-10)では、全体で5018件(前年度7,670件、前々年度6,537)、前年度比0.65で、内訳として夜間外来0.64、夜間入院1.09と全体的に減少しており、新型コロナウイルス感染症の状況や診療体制等による影響と推測されます。

【医療安全等への取組み】

医療安全に対する取組みとしては、特に造影腎症予防対策、造影剤副作用歴の確認、依頼内容と撮影内容の適正化(放射線科医と診療放射線科技師の両者での検査前チェック)等に取り組んでいます。具体的には、検査前3ヶ月の腎機能をチェックし造影剤腎症予防のガイドラインに基づく院内マニュアルを周知し適切な予防策を推進しています。過去の造影剤副作用歴、ビグアナイド系糖尿病薬の休業期間の確認等については、主治医からのオーダー内容確認に加え、電子カルテ確認、RIS(放射線科情報システム)で前回造影検査実施コメント等を活用し検査前に重点を置いて医療安全対策に職員全員で取り組んでいます。

【教育・研修について】

日本放射線技術学会、日本磁気共鳴医学会、医学物理士学会、日本核医学技術学会、原子力安全技術センター、日本乳がん検診精度管理中央機構などが主催する各種学会・研修会への積極的な参加を推進しました。また 2015 年度以降初期研修医 2 年目で放射線科を選択された先生方への指導も実施しています。

【機器整備および業務状況、各装置運用の課題など】

2015 年4月再編整備および救急センター運用開始とともに、1階に 64 列MDCTが稼動し、同年トモシンセス機能を装備した乳房撮影装置も稼動開始しました。

64 列MDCTは引き続き2台体制ですが、従来の地下CTと 1 階CTとフロアが分断された状態での稼動開始のため、安全管理に配慮し、迅速な画像処理、CT造影業務の課題、常勤医師による緊急検査の画像確認の方法など工夫しながら対応しました。1階CTの造影業務は昨年度と同様に外来や病棟医師の協力を得て行いました。診療放射線技師の業務拡大に伴う研修受講を進め、造影後の抜針等の取組みを継続しています。MRIでは、2019 年 1 月に装置が更新され、操作できる技師の育成を順次行いました。引き続き、院内のMRI安全管理マニュアルに沿った効率的な問診確認、貼り薬等の対応マニュアル活用等より適切で安全な検査を推進しました。

今後の課題としては、設置から 10 年以上を経過する高額機器として、地下CT装置、IVR装置が挙げられ、保守契約期間などを含めた計画的な機器更新の検討が挙げられます。その他、2台のCT運用改善やマニュアル整備、将来的には安全配慮と放射線診断専門医が緊急画像確認を速やかにできるよう1階で2台のCT運用ならびに効率的な読影体制整備が望まれます。各種撮影技術や画像処理技術の向上、当直帯も含めたCTやMRIの安全な検査体制整備を今後もスタッフ間の連携協力のもとに適宜推進して参ります。

(文責 放射線診断科部長 山下 三代子)

【放射線治療科】

2021 年度は 4 月末から 10 月下旬まで放射線治療機器の更新工事に伴い放射線治療は中断されました。4 月までは駆け込み需要で放射線治療件数は増え 1 日 35 件以上となっていました。新しい機器での治療開始は 12 月を予定していましたが、工事関係者および当科の診療放射線技師の努力により 11 月 18 日より稼働できました。新放射線治療システムは治療室内に診断に使用される CT を設置しており、治療前に同 CT を撮像し、病巣部を確認した後に治療が可能な高精度放射線治療機器です。診断用 X 線による位置決め、6 軸方向に移動可能な寝台も備えています。通常の治療はもちろん定位放射線治療の精度は著しく高まりました。回転型 IMRT も実施可能ですが、常勤医が 1 名のため未実施です。しかし新規に導入した高性能な放射線治療計画装置により IMRT に近い放射線治療が実施できています。11 月以降の患者数はやや減少していましたが、院外からの患者数は増加しており、半年間の稼働にもかかわらず治療件数は 200 件を上回りました。この他、当科は MRI (DWIBS) の積極的な活用 (治療計画への応用と効果判定)、他治療が困難な患者を対象とした KORTUC 療法など特色ある診療を積極的に行っています。

(文責 病院長補佐 福原 昇)

表-1 放射線診断科業務統計

		件 数				
		外来	入院	合計	前年比	
X線	単純撮影	23,829	5,550	29,379	1.00	
	パノラマ撮影	657	124	781	1.38	
	デンタル撮影	152	8	160	0.46	
	ポータブル撮影	1,114	7,506	8,620	0.91	
	手術室透視	7	222	229	1.10	
	造影撮影	393	562	955	0.86	
	内視鏡検査	29	191	220	1.02	
	小 計	26,181	14,163	40,344	0.98	
CT	単純検査	7,798	1,276	9,074	1.02	
	造影検査	113	25	138	0.99	
	単純+造影検査	2,080	312	2,392	0.91	
	ダイナミック	41	12	53	0.80	
	小 計	10,032	1,625	11,657	0.99	
MR	単純検査	2,389	414	2,803	0.99	
	造影検査	132	18	150	0.90	
	単純+造影検査	234	27	261	0.87	
	小 計	2,755	459	3,214	0.98	
血 管	心臓系	心カテ（診断） 左心・右心・両心	0	73	73	
		PCI	0	0	0	
		ペースメーカー （一時・交換・移植）	0	56	56	
	一般血管	診断	0	3	3	
		IVR	0	32	32	
	非血管系	診断	0	0	0	
		治療	0	2	2	
	小 計		0	166	166	
骨塩定量検査		748	68	816	1.02	
核医学検査		469	110	579	1.23	
結石破砕			35	35	0.69	
画 像	画像取込	2,164	291	2,455	0.93	
	画像出力	2,602	1,234	3,836	1.14	
放射線治療	体外照射	1,994	593	2,587	0.50	
	治療計画	142	47	189	0.53	
	小 計	2,136	640	2,776	0.50	
合 計		47,087	18,625	65,712	0.94	

表-2 依頼科別検査人数

	単純撮影	デンタル	ポータブル	造影検査	内視鏡	C T	M R	血管撮影	核医学	骨塩定量	画像出力	画像取込	合計
内科	3,260		2,438	22	33	1,535	314	1	23	28	368	204	8,226
腎臓内科	880		887	2	2	429	89	5	2	12	67	32	2,407
糖尿病内科	373		219		1	208	64		5	13	62	22	967
血液内科	59		2			62	9			2	29	40	203
呼吸器内科	5,561		2,219	4	87	1,576	221	1	30	7	630	330	10,666
循環器内科	1,183		716			240	58	128	120	1	217	59	2,722
脳神経内科	2					23	80		14	3	23	19	164
精神科						5	32		1		1	5	44
外科	1,821		687	184	85	1,182	105	8		1	51	130	4,254
呼吸器外科	238					184	17		3		31	13	486
脳神経外科	34					171	190		2		16	62	475
整形外科	4,752		570	24		591	531		1	422	333	384	7,608
形成外科						3	1						4
泌尿器科	2,065		288	331		1,223	302	3	119	1	168	190	4,690
婦人科	75		4			82	82			23	28	26	320
耳鼻科	86		2	169		201	48		2		27	26	561
放射線科	15		11			10					1		37
肝臓内科	162		30	3	3	188	298			9	203	10	906
リウマチ科	618		856		1	266	77	1	1	75	71	83	2,049
乳腺外科	655		3			435	110		230	162	26	311	1,932
緩和ケア内科	421		300	2		504	42			3	91	313	1,676
皮膚科	170		29			47	37			3	6	6	298
眼科	154		2			3	14				2	1	176
歯科口腔外科	919	264	24			388	40		15		28	68	1,746
健康管理科	2,723			262		104	70			84	2	1	3,246
麻酔科	4		4			5							13
人間ドック	215					31	36			12		1	295
人工透析内科	412		4			22	6				3	1	448
消化器内科	308		258	20	23	279	145	17		1	69	92	1,212
心臓血管外科	36			1		66		1			7	2	113
腫瘍内科	39		10	1		115	1				13	14	193
放射線診断科	6		4	1		49	17	1	9		66	4	157
放射線治療科	39					327	162		2	2	67	169	768
救急科	896		291			1,103	16				73	22	2,401
合計	28,181	264	9,858	1,026	235	11,657	3,214	166	579	864	2,779	2,640	61,463

表-3 X線撮影部門業務集計

	部位	外来		入院		合計			
		件数	照射数	件数	照射数	件数	前年比	照射数	前年比
X線単純	頭部系	74	147	1	2	75	0.66	149	0.67
	頸部系	16	27			16	1.14	27	1.08
	胸部系	12,724	18,777	2,908	4,142	15,632	1.03	22,919	1.02
	腹部系	3,343	5,413	1,761	3,230	5,104	1.03	8,643	0.95
	椎体系	1,277	3,636	141	358	1,418	0.85	3,994	0.93
	骨盤系	191	214	32	40	223	1.03	254	1.07
	胸郭系	208	468	13	30	221	0.85	498	0.84
	上肢系	1,132	2,765	104	275	1,236	0.69	3,040	0.68
	下肢系	2,123	6,009	590	1,338	2,713	0.90	7,347	0.92
	ドック	192	340			192	1.30	340	1.28
	検診	2,549	4,106			2,549	1.27	4,106	1.23
	パノラマ	657	663	124	126	781	1.36	789	1.36
	デンタル	152	152	8	8	160	0.46	160	0.46
	種別合計	24,638	42,717	5,682	9,549	30,320	1.00	52,266	0.97
ポータブル	病棟・外来	1,093	1,213	6,992	8,030	8,085	0.90	9,243	0.88
	手術室	21	28	514	797	535	1.08	825	1.11
	外科イメージ	7		222		229	1.10		
	種別合計	1,121	1,241	7,728	8,827	8,849	0.92	10,068	0.90
造影・透視	消化管	22	440	231	623	253	0.71	1,063	0.72
	肝・胆・膵	15	59	71	410	86	0.49	469	0.43
	泌尿器・婦人科	88	201	223	617	311	1.04	818	0.96
	整形外科	21	21	4	5	25	0.50	26	0.38
	特殊検査	5	14	33	125	38	3.17	139	7.32
	検診	242	5,364			242	1.13	5,364	1.16
	種別合計	393	6,099	562	1,780	955	0.86	7,879	0.97
内視鏡	呼吸器系	7	7	78	80	85	1.05	87	1.02
	消化器系	22	111	113	992	135	1.01	1,103	0.98
	種別合計	29	118	191	1,072	220	1.02	1,190	0.99

表-4 血管撮影部門業務集計

	検査法	件数
心臓系	心カテ（診断） 左心・右心・両心	73
	PCI	0
	ペースメーカー 一時/交換/移植	56
一般血管	診断	3
	IVR	32
非血管系	診断	0
	治療	2
	合計	166
血管造影部門	診断	76
	治療	90

表-5 CT部門業務集計

部位	件数	前年比
頭部	1,611	1.44
体幹	9,397	1.06
骨格系	35	0.73
上肢	57	0.66
下肢	183	1.24
ドック	25	0.58
検診	60	12.00
治療位置決め	194	0.58
KORTUC	33	0.53
血管系	26	0.81
CTガイド	36	0.73
合計	11,657	0.95

表-6 MR部門業務集計

部位	件数	前年比
頭部	890	1.00
頸部	74	0.73
胸部	102	0.87
腹部	763	1.14
骨盤部	380	1.04
脊椎	383	0.90
上肢	64	0.44
下肢	151	0.97
ドック	107	1.32
全身	300	0.88
合計	3214	0.98

表-7 核医学部門業務集計

検査項目	件数	前年比
骨	341	1.00
ガリウム	0	0
頭部	13	0.81
頸部	23	2.30
肺	12	1.71
心筋	134	7.05
心プール	0	0
腎・副腎	1	0
センチネル	54	0.71
腹部	1	0
ソマトスタチン	0	0
合計	579	1.23

表-8 放射線治療部門統計

表-8(1) 放射線治療業務内訳

		件数	前年比	件数(内訳)	前年比
体外照射	1門照射又は対向2門照射	2,587	0.50	55	0.18
	非対向2門照射又は3門照射			220	0.39
	4門以上の照射、運動照射又は原体照射			2,295	0.53
	定位放射線治療			7	新規
放射線治療管理料	1門照射又は対向2門照射	207	0.52	12	0.28
	非対向2門照射又は3門照射			24	0.58
	4門以上の照射、運動照射又は原体照射			171	0.55
体外照射門数	12,665	0.60			
治療計画	189	0.53			
照合撮影	1048	1.04			
体外照射用固定器具	22	0.37			

表-8(2) 放射線治療他医療機関からの紹介患者数

病院名	2021年度	2020年度	2019年度
よこはま乳腺・胃腸クリニック		14	20
日本医科大学武蔵小杉病院	9	6	3
菊名記念病院	2	1	1
聖マリアンナ医科大学病院	1		1
聖隷横浜病院	1	1	
昭和大学病院	3		
川崎市立川崎病院	2		
国立がん研究センター	2		
獨協医科大学埼玉医療センター	2		
帝京大学医学部附属溝口病院	1		
山梨県立中央病院	1		
ナチュラルクリニック代々木	1		
総合新川橋病院		1	1
町田市民病院		1	
大和市立病院		1	
練馬光が丘病院		1	
クリニックC4		1	
近藤誠がん研究所		1	
小野田医院		1	
亀田京橋クリニック			1
昭和大学横浜市北部病院			1
東京山手メディカルセンター			1
湘南記念病院			1
合計	25	29	30

表-8(3) 放射線治療部位別内訳(件数)

	2021年度	2020年度	2019年度
頭部(脳)	5	20	12
頭部(他)	3	6	5
頸部	12	36	19
肺・縦隔	10	26	29
食道	9	13	11
乳房	32	60	65
肝・胆・膵	13	10	3
骨盤	32	55	50
脊椎	29	60	54
上肢	4	5	6
下肢	9	12	8
その他	31	55	38
合計	189	358	300